

規範意識を身につけさせるための情報教育

－ 中学生と大人の共同学習による意識の向上について －

石川県金沢市立西南部中学校 嶋 耕二

「学問というよりも、この世の中を出発点」としている情報教育⁽¹⁾。本研究では、中学生を含めた我々大人も関わり合う現代の社会問題である規範意識の育成を目指した。学習の場を社会へ、中学生と大人（保護者、教師）によるメディアを駆使した共同学習を行うことにより、規範意識が向上することを検証した。

キーワード

規範意識 情報教育 大人と中学生との共同学習 メディアの活用

1 はじめに

メディアには、毎日のように青少年による犯罪が報じられている。筆者の勤務校は、金沢市の郊外にあり、従来は農村の様相を呈していたが、近年、映画館・ボーリングやゲームセンターなどを備えた大型ショッピングセンターが建設され、人や物の動きが大きく変わり、住民構成や生活様式も大きく変化している。

それは子どもたちにも影響している。例えば、幼少時からの遊び場の1つがゲームセンターであり、携帯電話などで連絡を取りあい、夜遅くまで遊ぶ子どもたちもいる。また、物があふれる環境の中で、遊び半分で万引きなどの犯罪を起こすことも多い。

この現実の中で、いかに規範意識を高め、正しい判断ができる子どもを育てるかが我々大人を含めた社会の大きな課題となっている。

2 本研究の目的

中学生は、学校や家庭で「悪いことは何か」や「やってはいけないことは何か」を学んでいる。家庭や学校そして社会にはルールがあることも知っている。ルールを守ることを日常の生活で実行させたい。また、目標を達成するための学習形態も考える必要がある。

異学年のような知的レベルの異なる共同学習は、自然に多くのことを子どもたちは学んでいることも分かっている。⁽²⁾ 本研究では、この学習形態を中学生と大人が社会において行うことで、次のことを明らかにした。

- ①中学生は、社会の中に多くのルールがあり、そのルールを定めた理由があることを認識することができる。
- ②学びの場を社会に置き、メディアを用いた大人との共同学習が両者の共通の規範意識を持ち、高めることに役立つ。

3 研究の内容

(1) 西南部中学校の取り組み

多くの学校では道徳や特別活動などを核として規範意識を高める活動を行っている。筆者の勤務校でもさまざまな取り組みを行っている。

特に、県教委の生徒指導サポーター（本校に来ていただいている方は、元家庭裁判所の次席調査官）に日常的に生徒指導の支援をいただき、全校生徒や地域の方々に対して規範意識の大切さや子育てについての講演会を定期的に行っている。ただ「いけない」だけでなく、法的な根拠を交えながらわかりやすく話していただき、多くの生徒は規範意識について理解していると考えている。

（２）本研究の取り組み

金沢市では２学期制に伴い、夏休みを「学びの継続」の時期と捉え、従来から各学校で取り組んでいる「サマースクール」を強化できるような資金的な援助を行っている。従来からの補充教室や質問教室だけではなく、学びの多様性に対応する特色ある講座の開設ができるようにするものである。

本研究では、その制度を活用し、夏休みだからできるような学習形態を設計し実践を行った。

ア 概要

以下は、学校から配布したお知らせの一部ある。

西南部中学校サマースクール

「みんなで考えよう 規範意識」のご案内

１ ねらい

社会のルールやマナーにはどのようなものがあり、それらをなぜ守らなくてはならないのか。学校外へ出て取材をし、まとめることなどを通して規範意識を高める。

２ 日時、場所、参加形態

- ・ ８月８日（日） ９：００～１５：３０（８：５０ コンピュータ教室集合）
- ・ 中学校コンピュータ教室及び学校外のいろいろな場所
- ・ 参加は「大人（保護者）と生徒」、「大人（保護者）」、「生徒（友達同士）」など、どの形態でも結構です。

※ただし、携帯電話の使用は、「大人と生徒」の参加に限ります。

３ 活動内容

- ・ 学校外の様々な場所（公共施設、会社、店舗、乗り物、路上、広告、警察）で、社会のルールやマナーについて取材（撮影やインタビュー）を行う。
- ・ デジタル機器で取材活動を行う。
（デジタルカメラは学校にあります。デジタルカメラによる撮影、携帯電話による撮影やデータ転送など）
- ・ 学校で取材したデータをまとめて発表する。
- ・ 全員で社会が求める規範意識についてディスカッションし、その必要性を認識する。

※後日、プレゼンテーションとディスカッションのデータをまとめて学校のホームページにのせて発信し、社会との交流を持つ。

【日程】

9 : 0 0 ~ 9 : 3 0	オリエンテーション
9 : 3 0 ~ 1 3 : 0 0	校外へ出て取材活動（昼食を含む）
1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	まとめ（パソコンで作成する）
1 4 : 3 0 ~ 1 5 : 0 0	発表会
1 5 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0	ディスカッション

イ 活動の実際

・参加者

中学生（3年生）	8名
大人（保護者）	2名
教員	1名
（親子で参加は1組）	

・活動場所

コンビニエンスストア、図書館、駅、公園、駐車場、消防署、バスの中、路上、
ゴミステーション、電話ボックス、ゲームセンター、学校 など

・使用メディア

デジタルカメラ（携帯電話の使用はなかった）
ホームページビルダー、ワード、一太郎、エクセル など

・参加者への注意

許可を取っての撮影やインタビュー
マナーを守っての活動

4 研究の結果

（1）コンテンツ作成

全体で9つのコンテンツを作成した。

コンテンツの内容では、

- ・多くのルールについて取材していた。
- ・なぜ、そのルールがあるかについての理由が記述してあった。
- ・ルールを守ることの良いことがある、という記述があった。
- ・常識的なことなのに、なぜこのような訴えをする必要があるのか、という記述があった。

つまり、社会の現実を見ることで、ルールの必要性を再認識している場面が多く見られた。

また、大人のコンテンツでは、中学生と行動をともにすることで、

- ・子どもたちに身につけてもらいたいことがわかった。
- 挨拶ができること、用件をはっきり伝えること、しっかり聞くこと、お礼の挨拶をすること、帰る際のお辞儀をすることこれらは、日常の大切なことであり、ルールであると思う。

という中学生への願いを記述していた。

（２）活動の感想

すべての活動終了後に、参加者全員に感想を書いてもらった。

中学生は、社会の中のルール必要性を中心に記述したが、大人は、取材中の態度など社会におけるリテラシーを中心に記述していた。

【中学生】

- ・ いろいろな場所にいろいろなマナーやルールがあり、それがとても大切なものだった。
- ・ ほとんどのルールは一般常識ばかりなのに、わざわざ書いておかなければならなのはおかしいと思った。
- ・ ふだん何気なく歩いている街角の中で、今まで意識していなかったルールやマナーがたくさんあって「へえー」の連続でした。
- ・ 始めどうなるかと思ったり、規範意識って何だとか多少思ったときもありました。けど、やっていくうちにどんどん慣れて結構楽しかったです。またあると参加してみたいです。
- ・ コンビニのインタビューはびっくりした。
一番身近な店なので、気をつけようと思った。
- ・ サマースクールに参加して、あらためて、マナーについて守らないといけないなあと思いました。あと、今まで知らなかったマークがいっぱいあってビックリしました。新しい発見とかができたので、今日のことはとても役に立ったと思うし、これからもすごく大切なことを学べたと思いました。
意外と写真を撮るのも楽しかったし、発表すること、いろんな人との関わりを持ててよかったと思う。こういう機会をもっと増やすと良いと思った。
- ・ 今回の活動で、「あいさつ」の重要性を再認識しました。人の世はあいさつに始まり、あいさつで終わります。自分の態度によって相手の自分への対応も変わってくるのです。だから、そういうものは「心が態度に表れる」と言われるように正しい心を人は人に接しなければならないと思いました。
また、苦手なことから逃げずに砕けてもいいからとにかく当たらなければ何も出来ないし、作品を完成させることさえも出来ないと感じました。

【大人】

- ・ 今日のような活動は、いろいろなことが試されることになると思います。
取材…聞き取り、交渉の力が試されます。
まとめ…表現力が試されます。
発表…説得力が試されます。
まさに何のために勉強をしているのか？
ということの答えがそこにあるのです。
そしてコミュニケーション…人との触れあい、総合力としての力が問われます。
良い企画だったと思います。ありがとうございます。
マナーを改めて考えると大人社会が子どもの手本になっていない……。情けない話だと思います。思い知らされました。

- ・ 今日一日お疲れ様でした。

いろんな場所へ行って、とてもよい話が聞けたことは子どもたちにとっても自分自身にとってもとても貴重な体験になりました。ありがとうございました。

(2) 結論

①について、

- ・ 社会の中で、多くのルールがあることを実感し、その理由を理解していた。
- ・ マナーを守ることの大切さを理解していた。

②については、

- ・ 大人がコンテンツや感想を通して、中学生も共通に認識していること（挨拶を含めて、コミュニケーションの大切さ）を中学生に訴える場面があった。
- ・ 大人も中学生も共通の規範価値を認識していた。
- ・ 大人もマナーを守ることの大切さ、中学生への良い見本となることの必要性を認識していた。

以上の点から、学びの場を社会に求め、メディアを駆使して共同学習することが中学生と大人、学校と社会の間に共通の価値感を作ることができたと思われる。

【参考文献】

(1) 菅井勝雄、赤堀侃司、野島栄一郎

「情報教育論」放送大学教育振興会 第6章 p 85 (赤堀侃司執筆)

(2) 同

第7章 p 95 (赤堀侃司執筆)